

来聴歓迎

新・〈原作〉の記号学

—伊藤俊也監督『風の又三郎 ガラスのmant』に触れて—

3月21日（土） 15:00～

場所：武蔵野大学・武蔵野キャンパス・7201 教室

予約不要・参加費無料

映画と文芸との関係を第二次テキストの理論として考える中村三春氏の『〈原作〉の記号学：日本文芸の映画的次元』（七月社）が刊行されて2年が経過しました。今回は、『風の又三郎 ガラスのmant』（監督：伊藤俊也、1989年）を題材として、理論的な整理をおこない、新たな「〈原作〉の記号学」を展望し、武蔵野の地で自著を超えていきます。

まだ語られていない、新・「〈原作〉の記号学」に触れてみませんか？

参考映像：『風の又三郎』（監督：島耕二、1940年）

参考書籍：『謎解き・風の又三郎』（天澤退二郎、1991、丸善ライブラリー）

『宮澤賢治、めまいの練習帳』（宮川健郎、1995、久山社）など



中村 三春（なかむら みはる）1958—

岩手県釜石市出身。東北大学大学院文学研究科博士課程中退、東北大学助手、山形大学教授などを経て2008年10月北海道大学教授。2007年、宮澤賢治賞奨励賞受賞。2011年「新編言葉の意志 有島武朗と芸術史的転回」で博士（文学）の学位を取得。

有島武朗、宮澤賢治、横光利一、太宰治ほか、近現代文学全般を対象にしてテキスト様式論、虚構理論を中心とする文芸理論を展開し、映像表現を含む日本文化との比較研究をおこなっている。

主催：武蔵野大学文学部・大学院文学研究科・武蔵野文学館・日本文学研究所

問い合わせ：武蔵野大学学部事務室（042-468-3350）